

団体・組織の概要

※太枠内、必須事項。その他は、該当する項目を記載してください。

団体/会社名	宜野湾の美ら海を考える会		
代表者	三浦信男	担当者	眞志堅宗弘
所在地	〒900-0023 沖縄県那覇市松山1-1-23 TEL:098-868-2862 FAX:098-868-2862 E-mail:		
設立の経緯 ／沿革	1996年、沖縄県港湾課が宜野湾港マリーナ防波堤沖のサンゴ礁水域を埋めて、海浜緑地を造成する計画を公表したので、魚介藻の専門家や生物教職者ら21名がこれに反対し、1997年海の日に、会則を承認して「宜野湾の美ら海を考える会」を結成し、行政側の埋立計画の廃止を要請した。		
団体の目的 ／事業概要	会の目的は宜野湾港沖サンゴ礁との共生を目指し（会則第2条）、サンゴ礁をそのままの状態で保護するのではなく、持続可能なかたちでサンゴ礁をサンゴ礁として上手に利用することで、海に潜れない人もサンゴ礁の海を楽しむことのできる環境教育の場を創る。		
活動・事業実績 (企業の場合は 環境に関する 実績を記入)	<p>97年 生物教職者ら21名が会を結成し、海浜緑地計画の白紙撤回を要請した。</p> <p>99年 WWF、全労済の助成で宜野湾港沖サンゴ礁の動植物図鑑を刊行した。</p> <p>99年 第15回水郷水都全国会議に出席して宜野湾港沖サンゴ礁を誌上報告した。</p> <p>99年 WWF セミナーに出席して宜野湾港沖サンゴ礁の保全と利用を講演報告した。</p> <p>00年 市内外の海愛好家延百名が参加したサンゴ礁利活用検討協議会を4回開催し、海浜緑地計画の廃止と自然サンゴ礁園の創設という結論を得て政策提言した。</p> <p>00年 県は緑地計画を将来構想に変更して残したので、県議会にその廃止を陳情。</p> <p>01年 宜野湾港沖サンゴ礁で行われた県自然保護課主催のサンゴ礁観察会に参加。</p> <p>02年 宜野湾市教育委員会の「海と人々つながり」企画展と海の観察会に参加した。</p> <p>03年 県港湾課は県議会ですら先に約束した環境実態調査を行い海浜緑地構想を廃止。しかし、自然サンゴ礁園については県港湾課も市教育委員会も否定してきた。</p> <p>04年 自然サンゴ礁園は、本会が宜野湾市長から海浜公園の占用許可を得てパネルで告示し、沖縄開催の第10回国際サンゴ礁シンポジウムで発表した。</p>		
ホームページ			
設立年月	1997年 7月	*認証年月日（法人団体のみ）	年 月 日
資本金/基本財産 (企業・財団)	円	活動事業費/ 売上高 (H17)	660,000円
組織	スタッフ/職員数 名 (内 専従 名) 個人会員 21名 法人会員 2名 その他会員 (賛助会員等) 名		

政策のテーマ

宜野湾の自然サンゴ礁園の創設

■政策の分野

- ・自然環境の保全

■政策の手段

- ・環境教育・学習の推進

団体名：宜野湾の美ら海を考える会

担当者名：具志堅 宗 弘（農 博）

■キーワード	サンゴ礁の 環境保全	サンゴ礁との ふれあい	サンゴ礁の 教育園開発	持続可能な 学習園開発	生物多様性の 推進
--------	---------------	----------------	----------------	----------------	--------------

① 政策の目的

サンゴ礁は沖縄の持ちかけがえのない最大の環境資源であり、「宜野湾の自然サンゴ礁園」は、その豊かさ（ポテンシャル）を活用することを前提として干出サンゴ礁の整備を進めていきます。

② 背景および現状の問題点

1997年の国際サンゴ礁イニシアティブ及び2004年の第10回国際サンゴ礁シンポジウムの沖縄宣言は、サンゴ礁の保全、再生と利用を国際社会に強く要求した。だが、その成果は都市近郊では全く見えてこない。「宜野湾の自然サンゴ礁園」はこれに応接するもので、わが国では公園非指定地区を対象とした最初の企画となる。

③ 政策の概要

土地の狭い沖縄ではリーフ（干出サンゴ礁）は埋立ての標的となり、宜野湾市でもサンゴ礁の豊かな海はほとんど埋め立てられた。唯一残っている宜野湾港マリーナ防波堤沖の3つのリーフは小さなサンゴ礁ではあるが、潮が引くと少し歩きまわるだけでいろいろな海の生物と出会うことができる。なかでも東のリーフは陸から本会が備えた踏み石を渡って歩いて行けるので、今でも児童生徒の自然観察や自然と家族との交流の場となっているが、観光客らもサンゴ礁の海を楽しむことができるように環境をもっとよくしていきます。

06年 アウトドア自然保護基金の16万円で海浜公園入口にサンゴ礁園の看板を設置した。

06年 日本万国博覧会記念機構の助成金50万円を得て、自然観察会の時人が大挙する自然サンゴ礁園の東リーフと手前干潟との間の水溝に「渡り踏み石」を設置した。

07年 イオン環境財団の環境活動助成金50万円を得て、NPO法人コーラル沖縄と協働して自然サンゴ礁園東リーフ周辺の海に養殖サンゴ苗木を移植した。

07年 東リーフ内にビオトープ池造成や海水交流の導水路掘削するため、TOTO水環境基金から78万円の助成決定があり、来春には実験的にリーフ整備事業が実施される。

④ 政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

現行法では自然サンゴ礁園の前例はない。宮古島八重干瀬のサンゴ礁に見るように、海中公園等に指定されていないサンゴ礁は国土とは見做されていない。サンゴは本土でも見られるが、サンゴ礁の礁原は沖縄でないと見られない。そこで、「美ら海会」では次のステップで自然サンゴ礁園計画（ビジョン）を進めています。

- ① 水域の利用目的を指定する。
- ② 表示板を設置して生物の多様性を紹介する。
- ③ サンゴ礁観察で潮だまりの果たす役割が大きいので、ビオトープ池、礁原のタッチプールや海水交流のための導水路を設ける。
- ④ 生物の多様性を計るため池や水路にはサンゴやシャコガイ等の移植実験を行い、更に礁魚のリーフ内への自然加入を促進する。
- ⑤ 植物園で見られるような観察ルートを取り入れる。
- ⑥ オニヒトデは見つけ次第駆除する。
- ⑦ 西、中リーフは徒歩による接近が難しいので海洋保護区とする。

これらのステップの外、サンゴ礁観察参加者には随時アンケート調査を実施し、そのニーズを吸収して今後の計画に展開します。

⑤ 政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

宜野湾市企画政策課：サンゴ礁園計画が港湾水域管理者である県港湾課により認められれば、市も協力します。

宜野湾市環境対策課：海的环境保全に協力しており、海の観察会を予算化してきた。

沖縄水産高校生物班：本会会長の出身母体であり、すべての面において提携・協力してきた。

NPOコーラル沖縄：サンゴ礁生態系再生計画を主催しており、東リーフ周辺でも養殖サンゴ苗木を移植した。

(株) Aqua Culture Okinawa：陸上タンクでサンゴ類等海生生物を養殖販売し、水槽でのサンゴ礁再現に努めている。

(株) 沖縄ポートサービス：リーフ上の土木工事の時は船を必要とし、そのための配船、配車をお願いします。

(財) 沖縄県環境科学センター：海の観察会に協力してきた。

⑥ 政策の実施により期待される効果（具体的にお書きください）

リーフは都市拡大の格好な標的となっていたので、社会経済的に埋め立てに勝るリーフ利活用の手法を探索し、その一つとして自然サンゴ礁園の創設を提言してきた。自然サンゴ礁園はサンゴ礁の持つポテンシャルを最大限に活用するものであるが、ダイバーを別として一般の人々にとっては、利用可能な時間帯が春夏期の干潮時に限られるという弱点をもつ。しかし、冠水することによってサンゴ礁が保養・養生していると解される。その多様性や維持管理においては陸上園に劣らない。シュノーケルを持たず、歩いて自然サンゴ礁の中を泳ぐカラフルな魚を見ることのできるサンゴ礁は、優れた観光資源であり自然保護が経済振興の手段となる。

⑦ その他・特記事項

運輸省港湾局は、1994年3月に「エコポート」整備構想を策定し、1999年6月には（財）港湾・海域環境研究所は「サンゴ礁と共生する港湾整備マニュアル案（沖縄総合事務局開発建設部監修）」を発行して、沖縄における望ましい港湾環境施策を実現するためには、サンゴ礁の保全・創造・利用に目を向け、サンゴ礁との共生を目指すことが重要な課題であると述べている。

2003年5月国交省港湾局は「新たな海辺の文化創造」を掲げ、「里浜づくり研究会」を設置した。これを受けて里浜・里海づくりの取組みが全国的に進められるようになったが、2007年11月沖縄総合事務局港湾計画課は「里浜づくり」のあり方として、住民の意見を聞いて行政が実施するのではなく、住民の活動を行政がバックアップするものと提言してきた。従って、沖縄の海辺はサンゴ礁によって象徴されるので、本会の「自然サンゴ礁園」は国の「里浜づくり」と、完全に一致するものと考えられる。

なお、県港湾課においては、当該水域の環境保全に関する管理指針もなく、自然サンゴ礁園は港湾施設ではないので公共事業の整備対象にはならない。また、港湾整備計画で定める必要もないとしています。